

年月日 平日＝2011年11月10日（木・晴）＝21名  
休日＝2011年11月27日（日・晴）＝14名

回数 2010期・第18回巡礼、2011期・第6回巡礼

巡礼寺・順

●二十三番札所 東光寺（とうこうじ）

\* 本尊・延命地藏菩薩 \* 山号・日金山 \* 宗派・真言宗 \* 草創・不明

\* 草創は定かではなく、堂の裏手に墓のある、松葉仙人の開創ではないかと、云われてる。

これが正しければ、271（応神天皇時代）に、相模の国に飛来した円鏡（伊豆山権現）を松葉仙人が奉祀したのが始まりであるという。

\* 本尊の地藏尊は 1685（貞享中）源頼朝が鎌倉幕府開いた後に、奉納して信仰したと言われる。

また本尊の脇仏の嘗善・嘗悪の二童子像は1671（寛文十一年）奉納されたもの。

\* 三仙人の墓・当寺を開創したと伝えられる、松葉仙人と共に木正仙人・金地仙人の三仙人の墓が本堂の裏にあります。

東光寺の特徴は、多数の石像です、千有余、熱海、湯河原からの石仏ハイキング・コースの途中にある石仏まで、数えると、二千体以上？はあります。

●二十四番札所 般若院（はんにゃいん）

\* 本尊・不動明王 \* 山号・走湯山 \* 宗派・真言宗・（金剛峰寺・末寺）

\* 草創・不明 \* 寺号の般若院は徳川家康が命名する

草創は定かではなく、271（応神天皇時代）に、相模の国に飛来した円鏡（伊豆山権現）の法楽のため、836（承和三年）僧賢安が、観音堂を創建したのが始まりだと伝えられている。

鎌倉時代、源頼朝はこの寺に、平家討伐の願をかけ、またそれが成就したことを感謝して鎌倉から年に一度は必ず参詣した、これは鎌倉幕府の定例行事として必ず行われていた。

大師堂は、本堂の左手奥に有る。弘法大師自ら刻んだと伝えている大師像が安置されている。

また、国の重要文化財、伊豆山権現立像が、本堂に安置されているが公開はされていない。

●二十三番札所 興禅寺（こうぜんじ）

\* 本尊・十一面観音菩薩 \* 山号・海岸山 \* 宗派・臨濟宗・(西京、妙心寺・末寺) \* 草創・1341(暦応四年)

\* 暦応四年、藤原藤房が祝髪して授翁をなのり、この地に来た時に創建された。1633(寛永十年)藤原

高次寄進の梵鐘がある。天然記念物であった金木犀の巨木は、枯れてしまい今は無く、二代目の金木犀が育っています。

●二十六番札所 長谷寺 (ちょうこくじ)

\* 本尊・聖観世音菩薩 \* 山号・根越山 \* 宗派・曹洞宗・(善修院・末寺)

\* 草創・草創・不明 1521(大永元年)現在地に移す

\* 本尊は行基作です。三十三観音石仏像があります

行基が伊豆を行脚中(668-749)、網代の屏風ヶ岩で修行中に、付近に漂着した木が大和の長谷観音の末木の霊木と知り、観音像を彫り洞窟の中に安置し里人たちが末永く、信奉しこの洞窟を、観音堂、観音山、と言うようになった。

1521(大永元年)善修院の僧、大祝宗興が現在地に移した。堂内には弘法大師像が安置され、境内には「大師の爪彫り」といわれる阿弥陀如来の線画が、石面に彫られたものがある。

距離 約8 Km (下りが厳しい) + 4.5 Km + 9 Km = 約21.5 Km

タイム 下土狩5:50—日金山墓地駐車場6:30—東光寺6:45~7:00—石仏の道—般若院(足湯入浴)8:15~8:45—熱海駅9:05—興禅寺9:40~55—錦ヶ浦10:30—長浜公園(昼食・休憩)11:05~12:00—網代—長谷寺13:10~30—宇佐美・民宿「のざき」15:00~16:30—三島18:00(平日巡礼)

温泉 10日、27日=宇佐美・民宿「のざき」500—

寺経費 なし

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

前回最終地、日金山墓地から出発。平日の天気はやや曇り、休日はまあまあだった。

東光寺入口の急坂を下れば境内は近い。早朝なので静かにお勤め。ご朱印帳は、すでに頂いてある。

ここから「石仏の道」を熱海に下る。山道をしばらく進むと岩戸山分岐。ここから眼下に相模の海を眺め、芝生の優しい切り開き道に行く。所々、赤土が露出しているので、

滑らないように注意。



石仏道と石仏達

石仏は一町（約109m）ごとに安置されている。個々に何町、何町と彫り込みがある。40分ほどで土沢上の道路に降りる。ここから熱海ゴルフ倶楽部を巻き、MOA美術館3階入口前を通過し般若院に出る。この間、非常に急坂でゆっくり下らないと膝を痛める。平日時、MOAは木曜休館日で駐車場のトイレが閉まっていた。

般若院に到着。裏入口には、二年前に出来た「足湯」がある。8時20分に係りの方が来て湯を入れてくれる。タオルも備えてあり嬉しい。平日・休日とも皆で「混浴」。足が真っ赤になり、軽くなった。

この寺は、山から下りてくると裏から入るような感じで山門を潜れない。山門を潜りたい場合は、あらかじめ道路を下り山門を上る。ここは本堂を開けてくれないので、外でお勤め。本堂には、国の重文があるだけに残念。



足湯がりがたい



般若院山門

ここから熱海駅に下る。道は更に急坂になった。東海道線をまたぎ駅に出る。「温泉まんじゅう」を横目に見てアーケードを更に下って行く。駅ではぐれないように注意。

魚屋前の路上に冷凍庫をかじった氷が散乱していた。足元を見ればマンホールの蓋は、熱海らしく「梅と卍マーク」だった。

昭和町の裏通りを抜けると興禅寺。山門前の六地藏が優しい。大きな山門を通り境内に入る。

ここも裕福そうな立派なお寺。トイレはスリッパで上がる。平日のお勤めは本堂。休日は法事で外だった。2年前、4～5人の僧侶が山門を潜って来た。玄関前で一列に並び短い読経をし、上がり框でお茶を啜る。聞けば三島・龍澤寺の修行僧。熱海で托鉢とのこと。ここは、その拠点だそうだ。

「まさか、三島から歩いて来たのではないでしょうね」と正したら、「そんなことはありません（笑）」の返事だった。

寺から錦ヶ浦に行く。前はここで昼食だったが、今回は時間があるので、多賀まで歩く。錦ヶ浦では身投げが話題だった。

R135を多賀に向かう。R135は歩道がない個所が多々あり気が抜けない。また、381mの赤根トンネルを潜るが、大型トラックの風圧、暗い足元に十分注意する必要がある



立派な興禅寺



長浜公園

ある。今回は、節電で消灯が多く更に厳しいトンネル歩行だった。

多賀に着き、長浜公園で昼食・休憩。ここはなかなかいい所だった。昼食後、巡礼再開。多賀から網代を歩く。

網代は「干物」の街。道路脇には干物の店が多い。中でも「イカの一夜干」は、美味しそうな色をしていた。

新網代トンネルを抜け岬を回ると、程なく長谷寺到着。休日班は海沿いの旧道を歩いた。ただ、新道と合流点に横断歩道がなく難儀。杖をかざしても車は中々停車しない。この先も横断歩道が少なく苦勞する。歩行者を考慮した設計になっていない上、運転マナーは、最悪。疲れた足を引きずって長い階段を上がる。

ここは岬の先端で見晴らしが良いことから、昔、灯台の役割をした燈明松・立燈松があった。ただ今、松は枯れてしまい燈明台だけ残っている。境内右手には、江戸時代の三十三観音がある。

寺番さんは、優しい感じのお母さんだった。平日時電話をした時、所用で不在と言っていたが、来てみると居てくれた。こちらを優先してくれたそうです。

この後、御石ヶ浜トンネル、新宇佐美トンネル出口まで歩き終了した。前者は536m、



長谷寺

檀家の寄進物



寺番のお母さん

後者は、710mと長い長いトンネルで恐ろしかった。休日は、Oさんが心配だから、巡礼杖をお互いが掴み連結して、安定歩行を計った。

温泉は、宇佐美民宿「のざき」。安価で温泉が良く、持ち込み自由でハッピーでした。



平日班・興禅寺



休日班・長谷寺